

## 編集後記

今号は、2011年12月23日から2012年1月1日にかけて実施された人文科学研究所の南西インド総合研究旅行の成果をまとめた特集号です。最近恒例となってきた年末年始の総合研究、今回の主な調査訪問地は、ハイダラーバード、ゴア州、ハンピ、バンガロール、マイソールでした。ゴアでは、ジャワーハルラー・ネルー大学 (JNU) で教鞭をとっておられた 現代インド農民運動がご専門のシッディーキー教授 (Majid H. Siddiqi) と面会してお話をうかがい、ゴア大学を案内していただきました。また、バンガロールでは、JETRO に長くお務めでインド経済に造詣の深い久保木一政氏と夕食をともにしながら、インド経済とインドの日本人社会についてのお話を伺いました。

さて、今号最初の論考は内藤雅雄氏の「ゴア解放運動史 1947-1961年」です。「ポルトガルがインドに入ってきた日からゴア人の解放への戦いが始まった」16世紀からの歴史を紐解きつつ、特に「ゴアはインド外交の墓場」とまで表された1950年代以降の解放への動きが国内・国際社会の時代的動向とともにどのように進められたのかが切々と書き記されています。論考全体を通して著者の主張が静かに伝わってきます。続く堀江洋文氏の「ポルトガルのインド進出とゴアの異端審問所」もやはりポルトガル領インドの中でも特殊な位置を占めたゴアの歴史について述べられたものですが、特にポルトガルの植民地政策を側面支援した異端審問所の運営と仕組みの実態が明らかにされています。またとりわけ政治が密接に関わる国王主導型の審問制度のくだりは植民地制度の理不尽さを突きつけられます。続く仲川裕里氏の論考「マイソール出身の学者 M.N.シュリニヴァスの生涯をたどって」は、今回の訪問地マイソールで、著者が感銘を受けたインドの社会学者の軌跡をたどったものです。シュリニヴァス本人による自伝的論文をもとに解説されていますが、インド特有の社会的・学問的事情が理解できると同時に、人生は予期せぬ出来事の積み重ねで、そしてまたそれに立ち向かって生きることが人生の普遍でもあるということを読み起こさせられました。そして、今号の締めくくりは、既述の久保木氏にご多忙の中、特別にお寄せいただいた「最近のインド経済情勢と日系企業進出動向—南部インドを中心に」と題する論考です。日系企業進出に絡む南部インドの最新の情勢をまとめていただきました。インドの経済成長が欧米や日本を中心とした対外的な経済連携の強化・拡大のなかで力強く伸びている様子をうかがい知ることが出来ました。

以上、インドを歴史、宗教、学術、経済等多方面から紹介した、といってもよい特集となりました。

(HH)

### 執筆者紹介

内藤 雅雄	元文学部教授
堀江 洋文	経済学部教授
仲川 裕里	経済学部教授
久保木一政	JCSS コンサルティング、ジャパン・デスク・ヘッド/ 日本貿易振興機構 (ジェトロ) バンガロール事務所、 シニア・アドバイザー

専修大学人文科学研究所月報

第 259 号 (2012. 10. 22)

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

専修大学人文科学研究所

発行者 小山利彦